

# これ以上税金をつかうな! チボリ

## 日本共産党 倉敷市政ニュース

### チボリ問題 特集号

倉敷市西新田 640 倉敷市  
議会内 tel:426-3767  
日本共産党倉敷市議団  
田辺昭夫 小山博通  
大本芳子 末田正彦  
田儀公夫

# これまで 700億円 近い税金投入

これまでチボリに対して、岡山県が周辺整備を含め450億円、倉敷市が出資・融資、周辺整備で225億円、合わせて700億円近い税金投入が行われてきました。さらに、「チボリを起爆剤に」1000億円規模の大型事業、倉敷駅周辺開発(鉄道高架、区画整理

など)が進められています。岡山県も倉敷市も、財政がひっばくし、こうした大型事業への財政支出が、地方自治体の本来の仕事である、住民の安全・福祉・教育の予算を圧迫しています。

## 破綻続く第三セクター

チボリを経営するチボリ・ジャパン社は、入園者数・消費単価の激減で、累積赤字が78億円に上ります。1000円を稼ぐのに115円の経費が掛かる状況で経営は成り立っていません。



入園者数91万人に激減したチボリ(倉敷市民無料の2月16日撮影)一所懸命に対応する従業員が可愛そう。社長など経営者の責任は重大です。

**緊急**  
チボリ問題報告・討論集会  
4月27日(木)午後6時半~8時  
倉敷労働会館

倉敷チボリの出資企業は、クラブウが7・2億円の地代、他の企業も建

チボリは元々岡山市制百周年記念事業で計画されたものです。誘致話を持ち込んだ人物との28億円もの業務委託契約が岡山市議会百条委で暴露され、税金の使い方が問題視されていました。

設事業や出店で利益を得ている面があります。税金をつかい民間と共同経営する第三セクターは全国で破綻が相次ぎ、総務省も「法的整理を含む抜本的な対応」を求めています。チボリに反対する県民の会、チボリはいらない倉敷市民の会、チボリ訴訟弁護団は「清算型の法的整理」を提案しています。

## 古市市長表明

二月定例市議会で、自由民主党ラフ秋山正議員、日本共産党小山博通議員の代表質問に古市健三市長は、「これ以上税金投入しない」という私のスタンスは変わらない」と明言しました。

## 県の不公平なアンケートに抗議 市議会全会派で県へ申し入れ

三月七日岡山県が発送した県民アンケートは、倉敷市の負担を求める方向へ誘導するもので公平さに欠ける、として三月十七日市議会全会派の代表が県に出向いて抗議文を渡しました。

アンケートでは 県の補助は打ち切り、チボリ・ジャパン社が倉敷市の支援を受けて自主再建。 県の公園として民間委託し、倉敷市から相応の支援を受ける。 民間譲渡、引受け手がなければ閉園。のいずれかを選ばせるものですが、「岡山県としては およびを基本とする」と添え書きして、及びへの誘導が行われています。

三月二十八日発表されたアンケート結果は、33%、が40%、が20%でした。その内倉敷市民の28%が を選んでいま

## チボリより福祉医療を

最高裁も「遊園地経営は自治体の仕事ではない」と明快に判断を下しています。岡山県は今年度から福祉医療制度の県民負担を増やそうとしています。チボリより福祉医療にこそ税金を遣うべきではないでしょうか。

## 倉敷市は税金投入しない

二月定例市議会、自由民主党ラフ秋山正議員、日本共産党小山博通議員の代表質問に古市健三市長は、「これ以上税金投入しない」という私のスタンスは変わらない」と明言しました。

## 倉敷市への負担押し付けに道理なし

三月三十一日記者会見で石井知事はを切り捨て、との折衷案をつくり、「検討委員会」の意見も入れたとして、「再建策」を発表しました。運営の基本は県営とし、県負担分は年間6・6億円と年間負担を半減。「指定管理者にはチボリ・ジャパン社が自然」として、同社による入園料1000円での自主再建を求めています。

しかし、「採算確保へハードル高く」(日経)「否めぬ問題先送り」(産経)と報じられたように、税金投入した上に採算性まで疑問視される始末です。

この「再建案」に出していない県の狙いが倉敷市負担です。「倉敷市には固定資産税が入るから」と地方自治を踏みじける押し付けをしたり、アンケートでも「観光・文化に役立つ」「(55%)」「役立つ」「(43%)」ときつ抗しているにもかかわらず「倉敷市に恩恵がある」と一方的にきめ付けています。道理のない倉敷市への負担押し付けは許されません。

# チボリのための開発から転換を まちづくりは市民の手で

倉敷駅周辺まちづくりは、チボリ誘致で大きく変えられてきました。一九九一年六月クラボウが工場閉鎖を発表した時には独自の跡地利用を構想していました。ところが、岡山県の強い圧力でチボリ立地となつたものです。

倉敷駅周辺まちづくりでは、「北都プラン」と名づけた駅北開発計画が一九九〇年度策定されていきました。

一九九一年倉敷市長選で渡邊行雄元県議が当選し、一九九二年度にクラボウ跡地など企業遊休地を活用する「都市拠点総合整備事業」の国庫補助を受け、倉敷駅周辺250ヘクタール(左図斜線部分)の計画



## 人と環境にやさしいまちづくりを

倉敷駅から放射状に延びる道路と環状道路、鉄道とは地下道で立体交差する、これが倉敷駅周辺の都市構造です。これらの道路網に循環バス、コミュニティバスを走らせ、自家用車に頼らないコンパクトなまちづくり、自転車で安全に行ける道づくり、など人と環境にやさしいまちづくりこそ求められます。

策定が行われました。

渡邊市長は、クラボウ跡地にチボリを入れ「チボリを起爆剤に」この都市開発計画を動かそうとしました。しかし、チボリ関連事業は進みましたが、それ以外の事業は進まず、問題だらけです。

## チボリで活性化されたかー鉄道高架も見直しが必要

250ヘクタール全体計画の中、区域の西半分が第一から第五まで5土地区画整理事業が予定されていますが、第一区画整理がクラボウ、倉敷市、JR3者で行われ、チボリ用地と道路が整備されました。

若葉 谷 洋子

一冬  
二冬  
季節を忘れ  
もぐりこんでいた  
こたつに  
ある日  
閉じたまぶたが まぶしくて

目が醒めた  
雨上がりの陽光が  
部屋いっぱいになり 差し込んで  
窓を開けると  
空いっぱい若葉が  
ふりむいた

小枝の先まで 光を繋らせて  
私を招く 生命のまなざし  
枝ごと  
流れ込んで来た

ビルを壊さなければ高架が出来ない計画は「ムダ遣い」との批判が起きています。寿町踏切は地下道が計画決定されています。鉄道高架よりはるかに少ない建設費で済むのです。一千億円規模の税金投入が必要な鉄道高架事業は見直す必要があります。

25年前、倉敷駅橋上化に合わせ、駅前商店街の協力で再開発し、東西ビルを建設しました。しかし、三越百貨店が昨年撤退し、現在、跡地への店舗誘致を一括転貸方式で進めています。チボリ誘致で東西ビルの活性化が期待されていきました。結果は、波及効果がなかったということではないでしょうか。

日本共産党は一貫して「チボリを起爆剤に」という開発から、「まちづくりは市民の手で、市民の手で進める」という方向への転換を求めてきました。

## 郊外型大型店を規制し住みよいまちづくりを

倉敷市はこれまで合併で広がってきた都市です。昨年、真備町、船穂町との合併で、350平方キロメートル、人口47万5千人の大きさになりました。

これまで各地区をつなぐ公共交通機関が求められてきましたが、逆に、バスの減便・路線廃止などが進んでいます。

いま、大駐車場を備えた郊外型大型店が進出・店舗拡大し、各地区の商店街から客を奪い、空洞化が進んでいます。そのため、車が必要になれば不便なまちとなつてきています。

ここに来て政府も、新たな大型店進出・拡大に歯止めをかける都市計画法改正案を国会に提出しました。日本共産党は、一貫して郊外型の大型店規制を求め、また各地区商店街の活性化策を求めてきました。

いま計画されているイオン倉敷SCの増床、百貨店誘致で1万台駐車場が予測されています。自動車が集まり、車公害がひどくなり、周辺住民にとって環境問題が深刻になってきます。住民みんなが住みやすいまちづくりに向けて、市民の声を集めましょう。